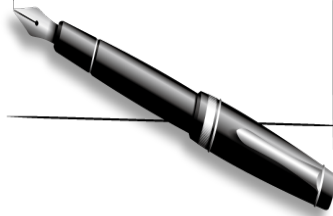


平山真人さん

百川の如き経験と熱誠

今、希望という大海へ



【法言】に「百川ひゃくせん海を学びて海に至る」とある。あらゆる川は絶えず海を目指して流れるから遂には海に至る、という意味だ。転じて、優れた人を手本にして弛まず努力すれば、最後には大成するという

こと。四字句「百川ひゃくせん学海」の語源だ。興味があるならば、やりたいことがあるのなら、自ら動いていくことが大事。失敗してもあきらめず考え続け淡々と情熱を持ってやり続けていけば、必ず実を結ぶ。

平山真人氏は、大海原の道なき道を航海し続ける生粋のストーリーテラー。鹿児島市で生まれ、男三人兄弟の次男として育つ。中流の家庭ではあったが、児童期は労せずして成績優秀だったため、万能感を抱いた。スポーツにつきものの勝ち負けが苦手で、表面上は大人数の子供。自らルールや物語を作り、空想に耽るのが好きだった。福岡の大学在学中に本屋で偶然、東君平の『ひとくちどうわ』を見かけ衝撃を受け、表現者としての自覚が芽生え始める。上京後も自分が一番輝

ける領域を求め、主に演劇と童話創作活動に注力。同時に持ち前の好奇心と行動力を発揮し、観光業、接客業、販売、営業、編集、ライターなど様々な職を経験。「可能性の模索」と題した自分探しは、人生哲学を盛り込んだショートストーリー創作への情熱を確かめるための旅でもあった。近年はストーリーカウンセラーとしても活躍する同氏。まさに百川の如き経験と熱誠は今、多くの人々を巻き込みながら「希望」という大海を目指し流れてゆく。

〔平成29年1月1日〕